

広報 なかわだ

第 353 号

2009 年 2 月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1
Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成 21 年 2 月 1 日

2 月の予定

教会委員会	2 月 8 日
典礼委員会	2 月 1 日
灰の水曜日	2 月 25 日



若い 20 代、30 代、40 代の信者が参加、活動する教会になるように努力しよう



主任司祭 小林 陽一

中和田教会の去年の 12 月 24 日、夜 7 時のクリスマス夜のミサは、小中学生、高校生、青年、20 代、30 代の人たちがたくさん参加していました。若い人達が参加するミサは活力があり、熱気と工夫があります。この時、聖書朗読の一つはヴェトナム語でした。良かったです。神の言葉がヴェトナムの信者さんにも伝えられることは、非常に良いことです。

ミサ後の聖劇の出演者は、去年より 10 人くらい多かったと思います。子供達にとって、聖劇に出演することは心理的に負担となりますが、大勢の信者さんが観ていてくれるということは心の励ましになります。聖劇に出た人たちは、この日の励ましをずーつと忘れないと思うのです。若い人達が何かを引き受けて実行するという動きは大切です。そのためには、おとなの応援と犠牲と祈りがないと、長く続きません。若い人達の意欲が今後も続くようお祈りをお願いします。

聖劇のような若い人達が頑張る企画の他に、若い人達がおとなのグループに混じって活動する企画も大切です。2008 年 10 月 25 日のバザーの時、いつもの焼き鳥、焼きいかの店に、新しい人達が参加して、一日奉仕してくれました。壮年の男性がこの店をバックアップし、焼き鳥の店に立ってくれる人を呼び掛け、何人かの人達が立ち上がりました。こうした呼び掛けは、呼びかけられた男性も、呼びかけた人も、手応えを感じたと思うのです。

中和田教会は去年から今年にかけて、少しずつ変わってきていると思います。アメリカのオバマ大統領の言い方を借りれば“チェンジ”していると思います。「一人でも男性に参加してもらいたい」「一人でも 20 代、30 代の若い人達に参加してもらえれば」という言葉にならない思いをもっておられるのは、お掃除のグループのみなさんです。若い力がほしい。毎週土曜日の午前 9 時 30 分～11 時頃まで、交替で月一回、多くても月 2 回、お掃除を、教会内のお掃除をしてくださる方々の、この言葉にならない願いは切実です。この言葉にならない呼びかけが実を結ぶように、現実の祈りが叶えられるように祈っています。

話は変わりますが、梅村司教様が 2000 年から出された司教書簡「交わりとしての教会を日ざして」を、2～3 頁ずつグループで読んで、感想を話し合ひましょう。典礼委員会、宣教委員会、ヨゼフ会、バザーの準備グループなどで読んで、気づいたことを話し合ひてみましょう。これは、教会共同体づくりを進める上で大切なことです。グループでこの主旨で、例えば 30 分くらい話し合う時、小林神父も呼んでください。こうしたグループに若い信者さんに入ってもらいたいです。若い 20 代、30 代、40 代の信者さんが参加、活動する教会になるように、努力いたしましょう。





森脇 信行

私が3年間のフランス生活を通して、また、日本の教育とフランスとを比較して特に強く感じたことを要約すると次のようになります。

1. 自立心を確立すること
2. 生活文化を中心とした伝承ということを考えること
3. 教育の分担を明確にすること

「自立心の確立」ということは、歴史的・地理的環境、民族的言語的な影響の中であって、なかなか意識されなかったことだと思います。日本という砦の中で、大体同じように考え、同じように行動する。ここに安全性もあり、同一仲間意識もあったと思います。しかし、時代は大きく流れ、潮流は急激に変化しています。10年前より現在の方が、日本も明らかに多民族であり、多言語なのです。習慣も違えば考え方も違うというのはグローバル化の当然の流れだと思います。この中であっては、自分というものをしっかり持ち、自分の考えで判断し、自分の考えで行動することのできる人間であることが必要となってきます。集団依存型でなく自立型でなければ、自己破壊になりかねない時代です。親が子に教えることの一つに「自分で処理できる能力を培う」という大切なものがあることを理解していなくてははいけないと思います。

次に伝承の件です。最近の日本では、親から子へと伝えることがどんどんなくなってきていると思います。親が子に伝えない、子も親に教わろうとしない。ここに伝承への断絶が感じられるのです。日本文化がここ百年の間に消えてしまうことを危惧している学者もいるそうです。海外の文化を取り入れていくことは良いのですが、生活の細かい知恵など日本古来の風習が消えていくことは寂しい限りです。もう一度身のまわりを見渡してみて、良い文化まで捨てていってしまっていないか、考えてみることも大切だと思います。日本の文化の上に立って、他の文化を積み上げていくことによって、将来への発展もあると思います。

最後に「教育の分担」についてですが、子どもの教育は「学校」「家庭」「地域」スクラムを組んで行うべきものであると思います。スクラムを組んで取り組んでいくためには、当然役割分担も必要となります。フランスでは、校門を出たら原則的に学校に責任はありません。頭髪、服装、すべて親の判断。躰、マナーについては学校は一切指導しません。日本のような校則も当然ありません。これが日本では生徒指導や生活指導すべて学校の責任。家庭に帰ってからの万引きの責任や地域でのいたずらまで責任を負わされています。これでは教員も教材研究オンリーで授業準備に頑張るわけにもいかず、結果として家庭も放課後や休業中に塾に通わせる。そのため、生活文化の伝承どころか、躰やマナーを教えることもできない。なんとなく、このような図式ができあがっているような気がします。どうしてこんな事になってしまったのでしょうか。学歴社会、安全社会のもたらす一面なんのでしょうか。こんな所から自分だけ良ければよいという、利己主義が生まれ、ボランティア精神が育ちにくいのではないのでしょうか。このような家庭と学校の関係の中ではお互いに過重負担になり、非能率的になってしまいます。負担から逃げようとか、能率の面からだけでなく、本来の責任分担がはっきりせず、間違っているのだと思います。家庭は躰、学校は勉強という、決まり切った分担を明確に背負い、勉強を任せられた学校は教師が研修を重ねて全責任を負う。こうならないものでしょうか。



平成 20 年度宣教グループ活動報告

(第 17 回湘南短期キリスト教セミナーの開催と経過について)

中和田カトリック教会 宣教グループ 竹内 広治

- 2008 年度「湘南短期キリスト教セミナー」の開催が、いろいろな事情が重なって準備に取掛かるタイミングがずれてしまい、時間切れなどで「セミナー」開催が危ぶまれた時、不安な気持ちで集まった従来からの委員（主催小教区を中心とした参加小教区の委員で構成）の実行委員会に、今回、第五地区共同宣教司牧委員会から 2 名の方の出席を得て、これからの在り方について論議いたしました。即ち「セミナー」の組織に対しての“位置付け”や“運営体制の見直し”等々、数回に亘っての会議の中、新しい視点から幾つかの意見をまとめ刷新を図りました。
- そもそも「湘南短期キリスト教セミナー」の始まりは、片瀬、茅ヶ崎、藤澤の各教会の「有志」の方々の奉仕でスタートいたしました。関係した皆様方の努力が実を結び、18 年の長きに亘って「セミナー」が継続され、今も 7 つの教会が参加して拡大発展を遂げつつあることは、宣教司牧の「伝える」心の見地から、大いに称えられて然るべきと思っております。
- 数回の会議の論議の中で纏められた、要点の幾つかを表記してみましょう。
 - (1) 毎年開かれるための、恒常的なセミナー委員会の設置。
(小教区から選任された委員で構成、3 役—委員長、副委員長、会計—互選で指名)
 - (2) セミナー委員会 —— 共同宣教司牧委員会 —— 小教区
(上記の —— に示される、関係が明確に定義されました)
 - (3) 第五地区の全ての小教区が、セミナーを支援する体制を整えバックアップ。
 - (4) このたび、創造へと繋がる紆余曲折の道のりを経て、「新生セミナー委員会」全員の努力と気迫の追いこみなどあって、「セミナー」が予定通り開催の運びとなりました。
(本稿は活動報告に留め、「セミナー」感想文は後日「広報なかわだ」に掲載の予定)

第 17 回 湘南短期キリスト教セミナー

この一人を大切に 講師：一澤 信子（社会福祉法人礼拝会修道女、ミカエラ寮施設長）
—キリストの愛と創立者マリアミカエラの精神に基づいて、人間尊重「この一人を大切に」をモットーに支援に努める、現場からの報告。

信じぬくこと、希望すること、愛すること 講師：平林 冬樹（イエズス会司祭）
—ペトロ岐部と 187 殉教者の現代へのメッセージ。

*日時：2008 年 11 月 29 日（土） *時間：13:30 ~ 15:30
*会場：カトリック大船教会 *参加費：¥500 円 ミカエラ寮への寄付を含む

第五地区キリスト教セミナー会計

*収入：「繰越金」450,743 「受講券」109,000 「献金、書籍販売」44,580 {合計} 604,323
*支出：「繰越金」313,960 「講師謝礼、交通費、ミカエラ寮寄付など」 {合計} 290,363



典礼こよみ（2月）



日	曜		ミサ・勉強会	備考
1	日	年間第三主日	主日ミサ（9時より）	典礼委員会、昨年枝回収
6	金		初金ミサ（10時より）	掃除 1 G（ミサ後）
7	土		主日ミサ（18時より）	
8	日	年間第三主日	主日ミサ（9時より）	教会委員会
14	土		主日ミサ（18時より）	掃除 2 G（9時 30 分）
15	日	年間第三主日	主日ミサ（9時より）	
21	土			掃除 3 G（9時 30 分）
22	日	年間第三主日	子どもと共に捧げるミサ（9時）	
25	水	灰の水曜日	ミサ（18時より）	
28	土			掃除 4 G（9時 30 分）

ヨゼフ会総会報告

鶴田 恒之

1月18日御ミサ後、皆様にお集まりいただき、ヨゼフ会の総会が開催されました。

昨年度の活動の総括がなされるとともに、今年度の活動方針につき、活発な意見交換が行われました。今後ヨゼフ会がどうあるべきかにつきましては、これまでも例会でたびたび議論して参りましたが、多くの意見が出るものの中々結論の出ない難問でもあります。これからも皆様とともに、この中和田教会の中でヨゼフ会はどう変わっていかねばならないかをじっくりと考えていきたいと思ひます。

昨年一年間、様々のテーマを検討し、議論してきました。愛の献金、慶弔費、サロン運営、自ら祈る力を育てるために、交わりとしての共同体、小教区の問題、ヨゼフ会活動の活性化、意識の改革、女性も含めた信徒の課題を語り合う場をどうするか、多教会との交流等、多くのテーマが課題となりました。

また8月には新しい試みとして、青少年との交流を旨としてバーベキューも行われました。

今年もこのような流れを受けて、有意義な議論を活発化していきたいと思ひますが、平成21年度の指針、議論の方向性としては特に下記のようなテーマについて考えていきたいと思ひます。

- *新しいヨゼフ会の運営、信徒の進むべき方向
- *司教教書にある三つの要素（祈る力を育てる、交わりとしての共同体作り、宣教）の勉強会
- *小教区への変化に備えた意識の改革
- *カトリック教会が変わろうとしている事実（新しい息吹、教徒に課せられた多くの課題）
- *他の教会との交流
- *子供達との交流
- *良識ある共同体 ヨゼフ会をつくる

皆様、今年も一年間宜しくお願ひ致します。



この後、夕方からは場所を変えて、新年会が開かれました。

今後の改革の方向、世の中の動きや昔の中和田教会の思い出話等、大いに盛り上がり、大変楽しい一時を過ごすことができました。ご参加頂いた皆様、有り難うございました。

お知らせ

転入

ジョナリン ピラス ジンボさん
横浜市瀬谷区下瀬谷 3-52-4

カタリナ 田中 麻衣子さん
泉区和泉町 3699-1



転出

マリア・マルガリータ・セシリア
金井 純子さん
京都教区西舞鶴教会へ
2009年1月9日付

メヒティルディス
江尻 迪子さん
二俣川教会へ
2009年1月15日付



侍者勉強会を行いました！

リーダー 大宮 智



先日1月18日（日）に、要理学校にて侍者勉強会を行いました。侍者を始めたばかりのお友達や、まだ侍者を経験したことのないお友達も参加しました。どの子も“目を輝かせて”興味津津に耳を傾けてくれました。

勉強会の内容は、①侍者の心構え、②侍者の3つの約束、③ミサ中の侍者の役目 の3つの流れで勉強しました。

① 侍者の心構え

侍者は、『信徒の中から選ばれた代表の奉仕者』です。

ミサの中で神父様はイエス様の代理人です。その神父様の一番近くにいる人が侍者です。

ミサに与っている信徒の中の代表者であることを意識して侍者に務めましょう！

② 侍者の3つの約束

神父様はミサの中で困ったことがあると、まず第一に侍者の人に助けを求めます。

そのような時に「神父様、何かご用ですか？」と対応できるように、次の3つを約束しましょう。

1. 神父様が立っているときは、侍者も立ちましょう

イエス様の代理人である神父様が立っているときは、速やかに奉仕できるように侍者の人も立っていきましょう。

但し、ミサの中で2つの例外があります。それは、『聖書朗読後のお説教』と『聖体拝領』のときです。

このときは、神父様は立っていますが侍者は椅子に座りましょう。

2. 立っているときは手を合わせましょう

立っているときは胸の前で手を合わせましょう。

ミサの中で何も持たずに立っているときは、胸の前で手を合わせた姿勢が自然です。手を合わせた姿勢で神父様を見ていると、神父様からのお願いをすぐに聞くことができます。

3. おじぎをすること

神父様に対して奉仕するときには、必ずおじぎをしましょう。

神父様が持つカリスにぶどう酒や水を入れる時や、神父様が手を洗う時には、神父様のおじぎに合わせて侍者もおじぎをしましょう。

神父様から差し出されたカリスやチポリウム（聖体を運ぶ容器）を受取るときにも、おじぎをしましょう。

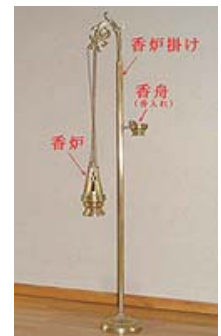
③ ミサ中の侍者の役目

ミサの流れに沿って入堂行列から閉祭までの侍者の役目を一通り勉強しました。

最後に、侍者の道具の1つとして『香炉（トゥリブルム）』を紹介しました。香炉は司教様のミサや聖週間などで使用します。

侍者が上達すると香炉を使えるようになります。小さなお友達もいつか香炉を使えるように上達できるようガンバリましょう！

当日、ご協力いただきました要理学校の皆さん、お友達のお母さん方、ありがとうございました。





信徒大会報告

09. 1. 25 (日) 10:30 ~ 12:00 於中和田教会 聖堂 出席者: 39名

■ 竹内委員開式の挨拶

主は、私の名前により集まる時は私は必ずそこにいるとおっしゃっている。本日の大会、活発な意見交換の場としたい。

■ 小林神父様挨拶

2009年の目標として、若い人達と共に歩むということで進んでいきたい。

若い人達に呼びかけ、参加してもらい、活動に入ってもらおうことを心がけよう。クリスマスのミサの後聖劇を子供達が演じてくれた。昨年より更に人数も増え、見ていて若い人達の参加と活動が重要なことを感じた。横浜教区の今年の目標も、共同司僕での若い人達の参加である。例えば、中和田教会の色々な成果は素晴らしいが、テンポが遅い、若い人達が全面に出てくるとテンポは速くなる。色々変化も出てくるだろうと期待している。

■ 小野委員長挨拶

2009年度を迎えるにあたり、つつがなく一年をやってこれたことに感謝致します。

第5地区の状況も変わりつつある。第5地区共同司僕委員会で新しい小教区のありかたが検討されている。各教会とも小教区の活性化に向け動いており、地区内で連携した教会学校の活動などは盛り上がった例。

湘南キリスト教セミナーも成功、有志教会のみならず、全体で実施されたことに前進があった。今年には中和田教会で行われる可能性もあるのでそのときは宜しくお願ひしたい。

09年度も色々課題がある。新しい小教区の在り方は一つの重要テーマ、全員の参加をお願いしたい。教会委員会にも課題がある。委員会の在り方を掘り下げて考えねばならない。若い人達にも参加してもらい議論して行きたい。広報に委員長メッセージを載せたりはしているが、委員会の動きがよく見えないという御意見を色々な方から頂く。深刻なのは、委員のなり手がいないことで、留任が続くと活性化が難しくなる。今年第5地区では中和田教会のみが委員長交代していない。今後活性化されていく中で当たり前のように交代していくことが本来の姿として期待したい。

■ 議事

1. 2008年度行事報告 (石川委員)

様々な行事が、皆様の御協力を得て成功裏に行われた。

2. 2008年度決算報告 (甲斐委員)

① 一般会計

収入: 8,392,874円

この内、月定献金: 3,185,600円 (平均約 3,000円)、ミサ献金: 912,929円等

支出: 5,047,519円

祭儀費: 267,534円、布教強化費: 209,217円、行事費: 141,335円、教育養成費: 147,423円、各種維持管理費: 404,270円、各種事務運営費 (消耗品、光熱費、旅費、他): 1,783,332円、教区関係: 2,055,240円等。(予算対比 95%)

次年度繰越: 3,345,519円

② 建設会計

収入: 7,704,174円 (前年度繰越: 6,173,374円)

支出: 1,726,365円

エアコン設置、耐震測定、トイレ工事の着手金等 (予算対比 57.5%)

次年度繰越: 5,977,809円

③ 愛の献金

収入: 518,624円 (前年度繰越: 216,095円)

支出: 279,629円 (各種指定献金等)

次年度繰越: 238,995円

3. 財務監査報告 (上野氏)

適法、正確であることを確認した。

4. 2009年度行事計画 (石川委員)

4/12 復活祭

6/7 堅信式

9/13 敬老祝福ミサ

10/25 バザー

12/24,25 降誕祭

5. 2009年度予算 (甲斐委員)

① 一般会計

収入: 8,395,519円

月定献金: 3,500,000円

オルガン献金 50万円 (信徒会計より 30万円、残金 20万円を皆様のご寄付でまかないたい。)

支出: 6,556,200円

オルガンの劣化が進み、修理も難しくなり、購入が必要。予算 160万円を組んだ。

② 建設会計

収入: 7,577,809円 (前年度繰越: 5,977,809円)

支出: 4,300,000円

トイレ改修が主要案件。

③ 愛の献金会計

収入: 508,995円

支出: 280,000円

6. 2009年度教会委員紹介 (小野委員長)

委員長は小野氏留任

変更のあった新委員は下記のとおり。

行事 G: 女性委員の後任は無し。構成する 4グループの推進者が適宜委員会に出席

男性委員は美底氏

福祉 G: 中島さん

典礼 G: 下村氏

7. 営繕関係報告（福島副委員長）

庭をきれいにする会、他各会の積極的な活動で教会が維持されてきたことにお礼。

教会建物を考える会の報告としては、エアコンの代替、聖堂 FM 送受信機が 2008 年度の主要な実施項目。耐震強度は堅牢で、阪神大震災レベルでも問題無いことが確認された。また、アスベストについては有害物質は含まれていないことを確認。各種改修案件はあるものの、最も優先度の高い案件はトイレの改修であることで集中的に検討を進めた。

8. 各委員からの挨拶

- ❖ 福島副委員長：あと一年頑張るので、宜しくお願ひ致します。
- ❖ 石川委員：皆様の御協力に感謝。色々な行事に今後も宜しく
- ❖ 美底委員：若手として奉仕、頑張りたいので、宜しくお願ひします。
- ❖ 山本委員：教会に見えていない方に広報を送るなどの活動、愛の献金の活動、各種寄付活動などを実施してきた。毛布の収集へのご協力有り難うございました。
- ❖ 中島委員：男性の協力も宜しくお願ひします。
- ❖ 甲斐委員：山田さん、他計 6 人のグループメンバーにてやっている。
- ❖ 山田委員：グループとしては甲斐さん、山田の他に 4 人の方々に、毎日曜日の献金の整理などこなして頂いている。
- ❖ 井上委員：今年は堅信もあり、その準備等を中心に活動を盛り上げたい。要理の方もうまく回転しているので、継続していく。中高生は中々皆で集まるのが大変という悩みもあるが、特技を活かしながら進めていきたい。宣教グループとして昨年は必ずしも充実した活動ではなかったが、堅信を契機に活性化したい。
- ❖ 岩淵委員：広報も 352 号を迎え、皆様の御協力に感謝。紙面がマンネリ化しないよう工夫していきたいので御協力宜しくお願ひ致します。

9. 質疑、要望、意見

- Q. 中島さん：献金袋の裏側の口数が一般献金と愛の献金で別々になっているのはばからしいのでは。
- A. 甲斐委員：もともとそれぞれ別に口数設定されるように考えているため。

Q. 上野さん：監査を 3～4 年担当してきて感じることであるが、教会は献金収入で支えられているが、総額が減少してきている。いずれやっていけなくなる恐れがある。献金を増額する手立てを考えて頂きたい。

A. 甲斐委員：中和田教会のみならず、議論されている。各種費用で一人あたり毎月 4200 円程度かかっている。一方月定献金は平均 2900 円、これにミサ献金と特別献金で何とか賄われている。基本は月定献金であり、その拡充を議論していきたい。

Q. 宮崎さん：新年度の行事予定は新しい委員の方から行った方が良いので、式次第として、まず新委員の紹介をした後、2009 年度の行事、予算説明をしてはどうか。

A. 小野委員長：全くその通り。次回から改善する。

Q. 岩崎さん：花壇関係の活動で支出欄に記載があるが、畑で獲れたものを販売した収益 3 万円を献金している。貢献したい、しているという気持ちを収入欄に表現して頂きたい。

A. 甲斐委員：確かに花壇関係で 3 万円頂いており、建設会計の特別献金に入れている。全体額からは小さかったので内訳表示はしなかった。

Q. 岩淵さん：2009 年度行事計画で、11 月に初聖体を予定しているので、加えておいて欲しい。

A. 小野委員長：了解。

C. 美底さん：今日の大会には、お母さん方にも出て欲しかったのだが、子供達の要理と重なった。お母さん方も個人的に大変忙しい中で頑張っていることをご理解いただきたい。

Q. 小野委員長：オルガンのことで補足があれば。

A. 岩淵さん：長年の使用でオルガンももう限界に来ており、保守もできない状況のため、予算に入れて頂いた。折角買うなら御ミサの雰囲気合った良い音色のオルガンをということ、色々調査した結果、パックスアーレン社のものを推薦させて頂いた。先日同じ機種を東京四谷の修道院に行って試弾させて頂いたが、期待通りの良い音だった。新しいオルガンで皆様と一緒に御ミサにあずかれればと思っている。

■ 閉式の挨拶（小野委員長）

中和田教会建堂後 35 年経っている。オルガンもガタが来ているので早期に対応します。この一年間色々な活動を進めていきたいので、昨年同様皆様のご協力を宜しくお願ひ致します。

委員会だより

△1月11日(日) 12名出席▽

■小野委員長挨拶

神父様の古希の誕生日(1/9)おめでとうございます。

■小林神父挨拶

「若者と共に」が09年のテーマ。20代の人に典礼や福祉のグループに入って欲しい。

■審議事項

(1) 教会委員の改選

- ◆宣教G.. 堅信他行事も多く、次の方が大変なので、もう一期継続。教会学校は要理まとめは岩淵さん、中高生会まとめは井上さん。
- ◆広報G.. 後任候補の了解取れず
- ◆財務G.. 継続
- ◆行事G.. 4つのグループをまとめる石川さんの後任は置かず、4グループのリーダーの内から委員会に出席。男性のまとめ者は美底氏。
- ◆福祉G.. 継続の方向だが検討中
- ◆営繕G.. トイレの件もあり、福島さん継続

- ◆副委員長.. 二人体制に向け折衝中
- ◆事務G.. 事務Gの委員会出席要否を検討願いたい↓別途決定
- ◆典礼G.. 今回交替。若い人に依頼中だが了解が得られていない。

- ◆委員長.. 後任候補の個人的事情から受けて頂けなかった。あと一期または一年、留任させて頂く。多選を防ぎ、若返りを図るべき、全員同期して交替しない方が良く、各種意見があった。

- ◆小林神父.. 各委員は必ず代理を定め、会合に出られない時は代理が出席し、情報をグループに伝えて欲しい。一期2年だが、再任時は一年毎に改選を考える等、弾力的運営を。

(2) 信徒大会式次第及び担当



主要議題..

08年度報告(行事、決算、会計監査)
09年度行事計画、予算
教会委員紹介、各グループ報告
担当は司会.. 小野さん、書記.. 岩淵
時間はミサ後開始、12時迄に終了

(3) 年間予定表

委員長試案が示された。
6/7 堅信式は大きな目玉
4/12の御復活に際し、早期に赦しの秘蹟の日程決定要
ヨゼフ会は親睦団体で、その例会は正規の年間行事には含めない。
子供ミサ8月と12月は休み。

(4) 防災訓練

小林神父.. 退出通路が正面玄関のみというのは課題が残る。他のドア二カ所ほど追加して欲しい。消火器使用は良かった。

(5) 降誕祭

小林神父.. 聖劇に出る人が増えたのは良いこと。励みにもなる。その他意見.. サラリーマンには7時開始は厳しい、初めて来た方への配慮不十分等の意見もある。また聖劇をミサ前にやってはとの意見もあったが、もともとはミサの後発展としてミサ後になった。ミサ前はバタバタしていて難しそう。

■各グループ連絡・報告事項

a. 営繕G.. トイレ改修案件

- ◆日程上の問題があれば福島さんに。
- ◆1/27~3/10までの時期、女子トイレが閉鎖される。使える方を交互に使う(男性使用中、女性使用中との札を立てる等の方法)や他二カ所(司祭館二階の個人用トイレの緊急使用もありうる)の有効活用も含め検討する。

b. 財務G..

◆一般会計

- ◆08年度決算
- ◆収入: 8,392,874円
- ◆支出: 5,047,355円
- ◆繰り越し: 3,345,519円
- ◆09年予算

オルガン購入費用.. 150万円
オルガン献金として信徒会計60万円を期待。08、09年バザー収益充当を考慮。
オルガンはミサにおいて本質的に重要な設備で、額の多寡にかかわらず皆の献金を募ることは良いこと。またこのような高額のもの購入時に次回購入を考慮し積み立てる等、減価償却的な発想も必要。

◆建設会計

- ◆収入: 7704,174円
- ◆支出: 1,726,365円
- ◆繰り越し: 5,977,809円

◆愛の献金

- ◆収入: 482,924円
- ◆支出: 239,629円
- ◆繰り越し: 243,295円

c. 典礼G.. 典礼こよみ確認

- ◆福祉G.. 左記を寄付。
- ◆カリタスジャパン2万円
- ◆心のともしび2万円
- ◆ペンシャワール2万円
- ◆旅路の里2万円
- ◆エリザベスサンダーホーム3万円
- ◆社会福祉協会3万円

d. 要理G.. 母親の話のみならず専門家の話を聞く趣旨で、シスターを呼んで話を聞く会を開催したい。

- ◆小林主任司祭より
- ◆境界線立ち会い.. 1月中旬に教会と駐車場の境を確定したい旨申し入れがあった。測量士を呼び測定すること、立ち会いが必要。十字架の道行き.. 2/27 am 10
- ◆灰の水曜日.. 2/18 pm 6時

09年1月委員会後記 小野委員長

1月25日の信徒大会には大勢の方々のご出席を頂き、またご意見・ご議論も頂きまことに有難うございました。厚く御礼申し上げます。小林神父様が広報なかわだの巻頭言で述べておられるとおり、本年度は若い世代の方々が教会の活動に参画しやすい風土づくりを目指したいと念じております。これは決して一部の委員や役員だけで出来ることではなく、信徒の方々全員の参画が必要です。皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

他方、第5地区共同宣教司牧委員会を軸として、『祈る力』『伝える力』『証しする力』の3つの切り口からのお話合いや分ち合いが各小教区で活発に行われ、盛り上がって来ております。これについても小林神父様が言っておられるように、いろいろな場を通して話し合いや信徒相互の認識の交流が必要です。司祭数減少が続く、信徒がより自立的に小教区運営に参画することが強く求められている現在、小教区内自己完結の時代は終わって、(小教区の枠を超えて)地区全体で相互補完、負担の分ち合いを行うなど、いろいろな形で動きが出てくると思います。中和田も積極的に対応していきましよう。

別掲の通り、2009年度から新しい教会委員会の体制で臨みます。委員長、副委員長につきましては、もう1年間、小生と福島さんが引き続き担当することになりました。当然ながら、皆様のご協力とご支援なくしては務まりません。何卒宜しくお願い申し上げます。